

2006年度 学部共同研究会

回 / 日 時	テーマおよび報告者
第1回（6月22日）	「福祉国家と贈与—The Modern Gift Institution from Potlatch to Industrial Districts—」 Glenn Sjöstrand（スウェーデン：ヴェクショー大学講師，立命館大学客員教授）
第2回（7月10日）	「Dyslexia（難読症）の子供の言語指導—アメリカにおける事例—」 Mary Margaret McAteer（立命館大学非常勤講師）
第3回（7月21日）	「ソーシャル・キャピタル理論の現状と課題」 筒井 淳也（産業社会学部助教授）
第4回（9月12日）	「市民ジャーナリズムの論理と課題—『Oh my News』日本語版発信によせて—」 呉 連鎬（『Oh my News』ネット新聞社代表）
第5回（10月27日）	《国際ワークショップ 社会ネットワーク・近隣社会と健康との関連を探る》 「近隣社会・社会関係資本・健康」 イチロー・カワチ（ハーバード大学教授） 「子育てネットワークと母親の健康」 松田 茂樹（第一生命経済研究所副主任研究員） 「日本における健康の地理的格差について」 中谷 友樹（立命館大学文学部助教授） 「近隣社会の日英比較」 アンソニー・フィールドディング（サセックス大学教授，立命館大学客員教授）
第7回（11月17日）	「福祉の混合経済・国際比較の視点」 Norman Johnson（元ポーツマス大学教授）
第8回（12月5日）	「教養の歴史社会学」 宮本 直美（東京大学大学院助手）
第9回（12月6日）	「まず子どもを!!—カナダ オンタリオ州の子どもの権利擁護の取り組みから—」 Judy Finlay（アドボカシー事務所所長）
第10回（12月21日）	「英国のNHSの変遷—1979～2005—」 Adam Oliver（ロンドン大学大学院専任教員・講師）
第11回（1月19日）	「カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ—視覚と構成の風景画—」 仲間 裕子（産業社会学部教授）
第12回（1月26日）	《日韓共同ワークショップ アジア経済危機以後の日本と韓国の社会変動》 「アジア通貨危機以後の韓国」 シン・グァンヨン（韓国：中央大学教授） 「世界経済と韓国経済」 李 康国（立命館大学経済学部准教授） 「公共空間の民営化の考察—龍山駅一体を中心に—」 ファン・セヨン（韓国：中央大学院生） 「ハインスワードシンドローム—韓国の人種政治の兆候—」 キム・ソンユン（韓国：中央大学院生） 「中高年男性の自殺問題」 高橋 裕子（立命館大学産業社会学部非常勤講師） 「人権としての良心的兵役拒否に関する国家の態度変化」 ハン・ジョンフン（韓国：中央大学院生） 「カナダと日本の移民政策」 金丸 眞充（立命館大学大学院経済学研究科院生）

第12回（1月26日）	「家事サービス労働者の労働経験からみた『母性』の商品化過程」 カン・ウネ（韓国：中央大学院生） 「現代日本における市民社会と大衆社会—「市民」をめぐる諸問題—」 藤田 悟（立命館大学大学院社会学研究科院生） 「韓国改新教の保守化の社会学研究05- 6年説教テキスト分析」 アン・ソンドク（韓国：中央大学院生）
第13回（3月9日）	《定年退職記念研究会》 「シカゴ学派社会学の方法論再考」 宝月 誠（産業社会学部教授）